

## ✧ 海外ニュース ✧

ドイツ 2017年6月20日 Verkehrs Rundschau オンライン版

### ■ 倫理委員会、自律走行のガイドラインを作成

Ethik-Kommission setzt Leitlinien für automatisiertes Fahren

報告書では、事故の際に必ず対人よりも対物の損害を優先的に選択すること、また被害者に対して年齢、性別などの要素で扱いを変えないことを推奨している。「被害者を金銭的に勘案することは禁止」される。そのため、賠償責任に関して製造者の負う義務は増大する。「あらゆる走行状況で、人間またはコンピューターのどちらかが運転を担当するかを明確に定義し、後に確認できるようにする必要がある」と委員会は述べる。委員会は完全監視についても注意を喚起している。車両の保有者や運転者が「蓄積される車両データの送信と利用について基本的な決定権を有する」ことが求められる。

フランス 2017年6月26日 VINCI

### ■ リアルタイムの交通情報を教えてくれるツイッターを利用して、バカンスの移動に備えよう

Préparez vos vacances en consultant votre Info Trafic en temps réel sur Twitter !

無料で利用できる新しいサービスが登場した。自宅近くを走る高速道路の交通情報をツイッター上で知ることができるようになったのだ！ この新サービスを使って出発前にリアルタイムの交通状況を把握することで、バカンスの移動に備えることができる。またこの夏、仕事でバカンスに出られない気の毒な人も、このサービスを通じて移動所要時間を把握し、高速道路を利用した毎日の通勤を快適にすることができる。

アメリカ 2017年6月26日 The Seattle Times

### ■ シアトル地域のドライバーは支払いの用意をすべき？課金という施策はあまり好まれないが、渋滞緩和には効果あり

Time for Seattle-area drivers to pay up? Tolling doesn't get much love, but it eases gridlock

15年ほど前に、ある地域交通計画機関が斬新な実験を行った。約400人のボランティアにプラグ接続式のGPS機器を持たせ、車の走行距離、時間、位置を追跡した。GPS機器には、道路や時間帯によってマイルごとの料率に変化する通行料が表示され、各ドライバーに割り当てられた予算から差し引かれていく。最後まで残った予算はボランティアのものになるという実験であった。参加者の1人は「メーターがどんどん上がっていくのが気になって、そのことが選択に影響しました」と語った。ピュージェットサウンド地方審議会（PSRC）が実施したこの調査では、課金によってドライバーが自分で自動車利用の傾向を少し変えることが判った。少しの変化でも皆が行うようになると、大きな影響がもたらされる。

アメリカ 2017年6月26日 Recode

### ■ マサチューセッツ工科大学が走行も飛行もできるドローンを開発中

MIT is building autonomous drones that can both drive and fly

状況に応じて地面を走行するドローンは、飛行するだけよりも実際に効率的であるかもしれない。目的地に到着するまでに、交通渋滞に巻き込まれそうなら飛行で移動し、飛ぶ必要のないときは地面を走行してバッテリー消費を抑えることもできる。この新しい装置の実験のために、研究チームは建物・駐車場・道路・離着陸場のある市街地の模型を作り、そこに8体の車輪付きドローンを走らせている。自律運転式で飛行する車（または自律運転式の走行するドローン）のアイデアはマサチューセッツ工科大学に限らない。ウーバーや、グーグルの共同創業者であるラリー・ペイジ氏が資本参加しているキティホークといった企業も、空飛ぶ車を実現させようと研

究中だ。この4月にウーバーは、2020年までにアメリカの上空に空飛ぶ車を出現させたいと述べた。

フランス 2017年6月28日 VINCI

### ■ 高速A10号線トゥール南の工事ゾーン：責任ある運転行動に報いるアプリが新登場

Chantier de l'A10 au sud de Tours : l'application qui récompense la conduite responsable

アップルストアおよびグーグルプレイにて入手できるアプリ「トゥールアゴ」は、いくつかの安全規則（6 kmにわたる工事区間を制限速度の時速70 kmで通過するなど）を遵守し、責任ある運転行動をとったドライバーに報いるためのものである。利用者は工事区間を通過するたびにポイントを重ね（ポイントは賞品クーポンとして換算される）、当アプリに協力しているトゥール市内の店舗や文化施設で賞品を受け取ることになる。用意されている賞品の数はなんと2,000以上、総額は約50,000ユーロに上る。

ドイツ 2017年6月28日 Verkehrs Rundschau オンライン版

### ■ トラックの走行禁止がバカンスシーズンに合わせて拡大

Erweiterte Fahrverbote in den Sommerferien

州によって時期をずらすドイツの夏期休暇が先週より最初の数州で開始した。通常の日祝日の走行禁止に加え、総重量7.5トン超のトラック、牽引車両を有するすべてのトラックは7月1日～8月31日まで規定の区間を走行することができなくなる。各州で定めた交通量の特に多い区間で、土曜の7～20時の走行が禁止される。

スペイン 2017年6月28日 abertis

### ■ アベルティス財団が70歳以上の運転者の安全性を向上させるための討論会を主催

La Fundación Abertis organiza un debate para mejorar la seguridad de los conductores de más de 70 años

参加した専門家各氏は、運転に必要な精神身体能力を併せ持っている限り、高齢者だからと決めつけて運転免許証に上限を設けるようなことはすべきではないと主張した。

ドイツ 2017年7月6日 Verkehrs Rundschau オンライン版

### ■ アウトバーン81号線で暑熱による速度制限

A 81 : Tempolimit wegen Sommerhitze

猛暑のため、シュツットガルト州政府中級官庁はアウトバーン81号線の一部で数日間速度制限を設けることを決めた。これにより使用年数が経過した舗装路が、高温時に膨れ上がる「ブローアップ」での事故リスクの軽減が期待される。制限は10時～20時で、来週の月曜まで実施される予定だ。

フランス 2017年7月7日 Le Figaro

### ■ ドローンは交通違反取り締まりの新ツール

Le drone, nouvel outil contre les infractions routières

交通違反を取り締まるため、高速道路近傍の30m上空から交通流を撮影するドローンは、今やアキテーヌ地方高速道路保安機動隊（CRS）が定期的に使用するツールとなっており、バカンス客の第一陣が移動する金曜日（7月7日）にも利用された。ドローンは空に浮かぶ黒い小さな物体となって、高速道路A10号線の近傍、ボルドーから30 kmほど離れたサン＝タンドレ＝ド＝キュブザック（ジロンド県）の上空に留まり続けた。地上では土手の背後に陣取った保安機動隊がドローンの撮影した映像を伝えるモニターに目を凝らす。画面上にはパリからボルドー方面へと途切れることなく続くトラックや自動車が映し出されていた。するとすぐに機動隊員が車間距離を守っていない1台のトラックを発見。1 kmほど離れた場所に待機していたオートバイ隊員に即座に連絡し、問題の車両の特徴を伝えた。監視されているとは気づいていないらしい違反者を検挙するために……。

インドネシア 2017年7月7日 Cosmos Online

### ■ 相乗りが渋滞を緩和させる証拠が示される

Evidence shows car-pooling cuts traffic jams

インドネシアの首都ジャカルタが、ラッシュアワーに中心部の商業地域を通行する際は1台につき最低3人乗っていないといけないという相乗り政策を廃止した。皮肉なことに、相乗りが渋滞緩和に効果的であることを示す証拠は、その機会に行った調査研究によって得られた。このジャカルタでの調査は、ハーバード・ケネディ行政大学院のリーマ・ハンナ氏率いるチームが行い、『サイエンス』誌に発表された。相乗りの車の数を増やすことが、交通渋滞緩和に極めて効果的である証拠が示されており、特に興味深い。研究チームは分析を通じて、道路での運行の遅れが、相乗り規制廃止前に比べて、朝は50%増、夕方にはほぼ倍増、ピークを過ぎた時間帯や代替道路でさえも10%増加したことに気付いた。

フランス 2017年7月12日 ASFA

### ■ 安全に関する ASFA 年次総括

Bilan sécurité annuel de l'ASFA

コンセッション方式で管理されている高速道路は他の道路施設より5倍安全であることが判明した。フランス高速道路会社協会（ASFA）の2016年度安全総括によると、2000年以降、コンセッション方式で管理されている高速道路の死亡事故件数は減少傾向が続いており、走行距離が41%増加したにも関わらず死者数は半減している。また2016年は、居眠り運転と特にスマートフォンの使用に起因する不注意運転が、死亡事故の半数弱（40%）を占めていた。他方、高速道路作業員の命を危険にさらす事故は、この5年間増え続けており（2012年より33%増）、2017年前半期も作業員が犠牲となる事故が著しく増加した。2016年は6月末までに50件だったのに対し、2017年は94件となっている。

ドイツ 2017年7月15日 Spiegel オンライン版

### ■ バーデン＝ヴュルテンベルク州、注意喚起塗装で逆走車の抑止を狙う

Baden-Württemberg : Rüttelstreifen sollen Falschfahrer vermeiden

バーデン＝ヴュルテンベルク州交通省は、ドイツ国内でも例を見ないパイロットプロジェクトを開始した、と本日公表した。同州でテストされる塗装は複数の線からなり、逆方向から走行した際に振動と音を発生させるもの。正しい方向を進む車には振動も音もほとんど感じられない。

イギリス 2017年7月14日 The Guardian

### ■ よりクリーンで環境にやさしい移動手段を導入し、都市生活の質的向上を

Improving the quality of city life : cleaner, greener transport

この4月にグリニッジ北部を訪れた人のなかには、緑と白に塗られたポッド状の物体が、乗客を乗せているが運転者はいない状態でテムズ川沿いの小道を走っているのを見て戸惑った人もいることだろう。この電気で走るポッドは、無人走行車両に対する市民の反応をみるために設計された。この試験走行が成功に終われば、車両は交通の拠点とホテルやショッピングセンターとの間を結ぶ定期往復バスとして引き続き活用される可能性がある。このポッドは、ロンドン美術館の新しい展覧会「都市は私たちのもの」で特集されているイノベーションのひとつ。この6月には市長が、2050年までにロンドンをゼロ・カーボン都市にするという野心的な目標を掲げた交通戦略の草案を発表している。